

# 令和7年度第11回 感染症発生動向調査協議会

## 議事概要

1 日 時 令和8年2月18日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

### 3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)  
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)  
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長)  
オブザーバー: 市原 拓(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係長)  
事 務 局 : 松尾 孝和(感染症対策推進課 感染症対策監)  
酢谷 奈津(感染症対策推進課 感染症対策係長)  
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)  
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)  
吉田 菜穂(保健環境研究所 専門研究員)

### 4 議 題 (進行:澤田委員、STI:高橋委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他(感染症対策推進課から)

### 5 議事概要

#### 【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・(委員より)肺炎球菌の血清型は、国のサーベイランス事業に検体を送って調べないと分かりません。ワクチンに含まれている血清型も、定期接種では20価までなので、限界はあるのだと思います。ワクチンを打つことに意義はありますが、免疫不全の要素がある方だったり、ワクチンに含まれない血清型の菌だったりすることもあるので、引き続き感染予防には留意してくださいと伝えるようにしています。一部の肺炎球菌は予防できるけれども、肺炎球菌にもこれだけの血清型があって、(肺炎を引き起こす)他の菌もあるという説明をしています。
- ・(委員より)梅毒の無症状病原体保有者は、何をきっかけに判明するのでしょうか。
- ・(委員より)術前のスクリーニング検査や勤務店の定期検査、妊婦検診に付随して判明するのではないかと思います。届出内容からは分かるのでしょうか。
- ・(事務局より)備考欄に検査の経緯などの記載があれば分かりませんが、記載がないこともあります。
- ・(委員より)パートナーが陽性になって病院の指導によって検査を受けたり、ずっと前の感染が検査で

判明したりすることもあると思いますし、本当に感染が広がっているのか分かりにくい状況です。

- ・(委員より) かわら版などで予防啓発しても、感染機会のある方はそれに目を通す機会がないので、なかなか感染者が減少しないのだと思います。
- ・(委員より) どうやったらそういう方に情報が届くのかという議論はずっとしていますが、XやインスタグラムなどSNSを見る層が本当のターゲットだとすると、そういうSNSを使って発信していかないと届かないのかもしれないかもしれません。
- ・(委員より) かわら版のX版などは作れないですか。
- ・(事務局より) インスタグラムなど行政でも取り組みやすいSNSは、岐阜県でも所属単位でアカウントを作って管理しているところもありますが、現状では(感染症情報センターとしては)やっていません。
- ・(委員より) 性感染症の要素があるエイズ予防月間のような時に合わせて情報を出したりするのもよいかもしれません。
- ・(委員より) リスクのある行動を取っていても、梅毒などの感染を心配して調べている方はSNSで関連情報として出てくるのですが、全く心配していない方には届きにくいというのが問題です。
- ・(委員より) 泌尿器科、産婦人科領域では、淋菌の薬剤耐性が問題になっています。この発生動向調査の内容からは把握できませんが、薬剤耐性淋菌の広がりや治療指針に沿った抗菌剤の使用ができていないか危惧しています。

#### 【予防接種週間のかかわり版について】

- ・(委員より) 予防接種自体は市町村の事業となります。各市町村でも啓発方法について色々と工夫していますので、連動できるとよいと思います。どのタイミングで啓発して、誰に届けるのが重要ですか。就学前に打ち忘れていた予防接種に関してということであれば、就学时健診などが一つのタイミングかと思いますが、対象の子供がいるお母さんに届くように検討してほしいと思います。

#### 【学校における結核の集団感染事例について】

- ・(感染症対策推進課より) 初発患者が名古屋市在住で、学校が岐阜県、アルバイト先が豊田市にあるという事例がありました。各自治体で接触者を調査したところ、合計116名のうち発病者4人、感染者20人が発見されています。
- ・(委員より) 潜在性結核感染症患者がこれだけ出ていますが、学校に対して啓発をすることで防げたのが重要だと思います。こういった多くの外国人を受け入れる学校は、結核について意識しておく必要があります。

#### 【麻しんについて】

- ・(感染症対策推進課より) 麻しんの増加について、患者報告数が昨年より早いペースで報告されており、また推定感染地域も毎年傾向が異なるということで、国から注意喚起の通知が出ています。
- ・(委員より) 先日の岐阜市医師会のカンファレンスで、岐阜市保健所と連携して動画を作って、診療所の医師が届出までの流れを確認できるようにしました。診療所で感染対策上の配慮を十分にできなかった事案もあり、懸念しています。